

## 第6次白老町総合計画策定委員会（第2回）会議要旨

日時：令和元年6月28日（金）10:00～12:00

場所：役場第2会議室

出席者：岡村委員長、古侯副委員長、安藤委員、高尾委員、大黒委員、下河委員、久保委員、  
藤澤委員、川崎委員、有村委員、鈴木委員、谷野委員、中谷委員 13名

事務局：工藤課長、温井主幹、安藤主任、金子主事、吉井主事

### 1. 開会

### 2. 報告

#### （1）これまでの取り組み経過

○事務局から説明（別紙 前回からの策定経過）

○意見等

【鈴木委員】町民意識調査の回収数については問題ない。札幌市で調査を行う場合でも、400人程度の回収数を目標にしている。白老町の人口を踏まえると回収数580人は十分である。

【有村委員】地域別での回答率を出さなければ回答率の多い地域の意見に偏ったものとなるため、今後の分析においては注意が必要である。

#### （2）中学校アンケート調査の集計結果

○事務局から説明（別紙 「白老町まちづくり中学生アンケート」調査結果報告）

○意見等

【岡村委員長】現実的に将来を考えていると感じる。アイヌ文化に対しても素直な気持ちが書かれていると思う。

【古侯副委員長】自治基本条例に関わった時、アイヌに対する意識はそこまでなく偏見等もあった。本町におけるふるさと教育が一定の成果をもたらしている。  
子どもたちには白老への愛着があるが、進学や就職等の現実的な面も見ている。今後のまちづくりとしてこのギャップにどう対応していくか考えていかなければならない。

【安藤委員】白老に対しての愛着の実態うれしく思う。ふるさと教育の成果であると思う。ウポポイも開設されるので、より一層教育行政に取り組んでいきたい。

【中谷委員】アイヌ文化に関しての結果をみると、学校教育の効果は絶大である。

回答項目に広がりが見えずらいつ感じる。中学3年生の発達段階は人生について考える時期であるから広い世界を意識させてほしい。

【谷野委員】私が子どもの頃はアイヌ文化に触れる機会がなかった。今回の結果はそのような機会が増えたことが要因であると思う。

商工会の立場として、働く場所が少なく、一度外に飛び出し帰ってくる人の受け皿がないというのはすごく痛いところ。

ウポポイが開設されるが、様子見になっている人が多く、盛り上がりにかける。当事者意識を持たせることも重要である。

【有村委員】子どもは一度都市にでていくものである。行った先から白老に人を呼び込む役割も果たしてくれる。そういった面も教育していくことも重要である。

【鈴木委員】この結果は非常に明るいニュースである。この結果を町民にどう波及させていけるかが大事になる。

「住み続けられる」と「住みやすい」は意味が違う。住み続けられるまちにすることを目指した方がいい。

【古侯副委員長】近年、20代後半～30代の町出身で周辺地域居住の若い世代が、本町の採用試験を受験している傾向にある。彼ら彼女らが白老に帰ってくるための要素をどう植えつけられるかが「住み続けたい」につながると思う。

### 3. 議事

#### (1) 第 5 次白老町総合計画の評価・検証について

○事務局から説明（別紙 第 5 次白老町総合計画検証報告書、資料 1、資料 2）

○意見等

【鈴木委員】次期総合計画ではまちづくり指標の設定を見直す必要がある。

【有村委員】評価の仕方として内部評価と外部評価を平均するのではなく、散布図を作成し標準偏差を使うことにより、より正確に分析できる。

総合評価は残したままでもいいが、散布図については作成願いたい。

【高尾委員】重点プロジェクトは基本方針から引っ張っているため、重点プロジェクト単独で評価するというにはならないのではないかと。

【鈴木委員】内部評価は基本的に甘くなると思うので、外部評価に注目することが大切。総合評価はやや進展としているが、住民の視点にたって捉えたほうがよい。

【有村委員】事業や取り組みの中で住民には見えていないものは多くある。その部分をアピールし伝えることで外部評価も変わってくる。

【古侯副委員長】検証結果について統一的にまとめた方が見やすいのではないかと。

【大黒委員】総括について、視点 1 の優先順位を明確にというのは現状にあっていて、良いと思う。

【下河委員】拡大傾向にあったものを、維持活用という視点が必要。

【藤澤委員】第 5 次総合計画の 8 年間は我慢の時代であったと思う。これからはどの程度まで攻めたことをできるかが重要。

【川崎委員】住民が町の現状を理解しなければいけない時期にきている。見える化が求められる。

【中谷委員】視点 3（人材育成）についての説明を総括に盛り込んでどうか。

期待があるから住民評価が低いという面もあると思う。評価結果は議論の資料としての位置づけでいいのではないかと。

【谷野委員】総合計画は町の指針となるものであることから前向きな評価はよいと思う。

【有村委員】総括について、「外部環境」や「将来像の共有」といった文言を視点に加えてもいいのではないかと。

【鈴木委員】町民との情報の共有が重要になってくる。今後は人口減少により行政がフルサービスを行うことは困難になる。町民にしっかりと現状を説明し、危機意識を持っていただくことが大事である。

#### (2) 第 6 次白老町総合計画の骨格について

○事務局から説明（別紙 白老町総合計画のフレーム(案)） 質疑なし

### 4. その他

今後のスケジュールについて

○事務局から説明 質疑なし

### 5. 閉会